

寅彦の情報あれこれ

【大雪の寺田寅彦邸】

2022年12月23日は高知地方気象台始まって以来の大雪（積雪 14 cm）でした。昭和62年の積雪を超えて、35年ぶりの新記録となったようです。交通機関も軒並みストップか大幅遅延となり、筆者は徒歩通



勤でやっと記念館に辿りつきました。9月19日の台風で破損していた正門と北側の竹垣が12月20日に修復なったと聞いていたので楽しみでしたが、当日はそれどころではありませんでした。ただ、高知にとっては100年に一度あるかないかの大雪でしたので、滅多にないことだから...と何枚も写真に収めたことでした。結局、この日は来館者もなく、雪の庭に足跡を残したのは自分だけでした。この雪は北側の勝手口の屋根には26日の夕刻まで残っていました。

写真は左上から、記念碑と正門、庭木と母屋、庭木と灯籠、縁側から見た庭の冠雪。

（宮 英司）

【震生湖に新しい寺田寅彦の句碑】

神奈川県秦野市の震生湖は1923（大正12）年の関東大震災の時、渋沢丘陵の一部が崩壊し、その土砂が谷川をせき止めてできた湖である。

寺田寅彦は1930（昭和5）年9月に調査に来て、俳句を三句つくっている。三つの句のうち「山さけて なしける池や 水すまし」は震生湖湖畔の句碑に、「穂芒や

地震にさけたる 山の腹」は本町小学校敷地内の句碑にそれぞれ刻まれている。

2022年9月7日に除幕された新句碑は峯坂を登りきり、湖への道との分岐点を過ぎた震生湖バス停のそばにあり「そば陸穂丸う山越す 秋の風」と彫られている。



寅彦新句碑（ストリートビューによる）
左奥は「大震災埋没者供養塔」碑

2022年3月26日、震生湖が登録記念物になりその記念碑ができているし、周辺の環境整備も進んでいるようだ。

【ふしぎいろいろ展の動画】

高知県立文学館で開催されていた企画展「寺田寅彦「茶わんの湯」100年 ふしぎいろいろ展」が2022年11月20日に閉幕した。館内で公開されていた寺田寅彦随筆紹介の映像「寺田寅彦実験室」が館のHPにアップされている。内容は

- ・茶わんの湯
- ・電車の混雑について
- ・金米糖
- ・藤の実

の4本となっている。とても面白いので、時間のある時に見てください。

【会員の図書紹介】

本会会員・四宮義正著『続・寺田寅彦の光跡を求めて』を紹介する。

これは2019年1月に出版された『寺田寅彦の光跡を求めて』の続編で、『榭』への投稿文を中心にまとめられている。

第1章共鳴箱から、14編。第2章言の波

から、14編。

第3章流れのほitori、5編16節、の全3章構成で付録がある。

興味のある方は著者か記念館まで。



続・寺田寅彦の光跡を求めて
四宮義正

☆事務局から講演会・総会のお知らせ☆

令和5年度寺田寅彦記念館友の会講演会・総会を下記の日程で行います。

日時 令和5年4月23日（日）

午後2時講演会、午後3時総会

場所 寺田寅彦記念館

演題 『「寅彦の見た風景」を探して-寅彦少年のコスモロジー-』（講師 野村学）

議題 役員について、生誕150周年について等

新型コロナ感染状況等により、中止の場合はHPでお知らせします。あるいは電話で記念館までご確認ください。なお、役員会は12時より始めます。昼食を済ませてからご集合ください。